
仮面ライダー 5 5 5 × とある科学

投光

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダー555×とある科学

【Nコード】

N4989Z

【作者名】

投光

【あらすじ】

仮面ライダーと科学が交差するとき、黒きボディが赤に変わる

エピソード

ここは、学園都市でもかなり広い施設の一角、見た目社長室！といわんばかりの豪華さのある部屋の入り口に近い机に座っている女の子が書類整理に没頭している

「・・・これと、あれは提出で、これは・・・は？領収書？」

15歳ぐらいの女の子は、見覚えのない紙に驚き、ここにいる入り口から少し歩いた所の

正面の机に座っている男に声をかける

「ねえ？これ・・・なにか？」

紙を見せて笑ってない笑顔で男に声をかける

男は学園都市の中では不恰好な携帯を開きながら答える

「なにつて、領収書」

即答だった

「ああ、もう！また勝手に組織のお金使ってえ！今回なに食べたのよ」

「パフェ10、ケーキ16、コーヒー9かな」

「きい
い
い
い
い
い
い
い
い
い
い
い
い
い
」

女の子は自分の髪を両手で掻き終わつた後、再び男の方を見る

「……今回は、仕方なく、仕方なく許してあげるから」

男は驚いた、だっていつもなら説教が永遠と続くからだ

「『仕方なく』を強調するんじゃないよ、小桜」

「あんたにいったって、『無駄』なのは、私でもわかるわよ」

今度は「無駄」を強調されて男はやれやれといった口調で話を変える

「で、怒ってないとしたら何なんだ？」

さお
小桜と呼ばれた女の子は一呼吸ついた

「・・・ふう、最近私達が守っている区域で感電して黒焦げになっている人間や発電所がいかれて停電が頻発してるって、知っているでしょ」

「ああ、俺のアパートも前の停電をきっかけで停電対策をするってだな」

「今回の仕事はその子の更生よ」

「と、言うとな俺に何をしろと？」

「その子のそばで問題行動を起こさせないことと、これは別件でオルフェノク増殖の謎を調査してほしいのと、これに関連してその子の保護を」

オルフェノクという言葉に男は動きを止めた、最近学園都市の中で、死人が生き返り、謎の超能力、突然変異メタモルフォーゼを使って人を襲っているらしい

「で？俺に何でその問題児を保護しなきゃならな

」

「超能力者（レベル5）」

再び男の動きが止まり今度は小桜を上目で見る

「資料と詳しい詳細はこの封筒にあるから」

「じゃあ私、資料出してくるからね、巧たくみ」

小桜は封筒をパンパンとたたくと部屋を出て行った

「…………ふつまあいいか、あんなこと死んでも変わらんか」

男は不恰好な携帯とアタッシュケース、封筒を持つ

て出て行った

電気を使えその上超能力者（レベル5）といえは一人
しかない

「・・・・・・・・御坂 美琴か」

EP 1 挨拶

「二人とも今回から風紀委員になる

」

「赤光巧」

交感音をつけるならシーンだろう沈黙が続いた

「あの・・・そ、それだけですか？」

沈黙に耐えれなくなった花飾りを頭につけた女の子が

質問する

「もう、巧くん！ちゃんとして」

隣にいた国法が子供をしかる口調で言う

「・・・まったく、俺はお前ガキか！国法！」

二人は知り合い見たいが巧の国法の関係は今は説明はしないでおこう

介を」

「いくらやつても仕方がないわ、じゃあ二人の自己紹

「はい／わかりましたわ」

「では、まず私から」

花飾りをつけた女の子が手を上げる

「えっと、柵川中学一年、初春飾利です」

「私は、常盤台中学一年、白井黒子ですわ」

さすがに、ああよろしくの聲が来ると思っただのか手で握手しようとした二人だがそれは裏切られた

なぜなら、

「………っう、ふう………」

何も言わず出て行こうとしたからだ

「あ、あたな！ふざけているのですか！」

「そ、そうですひどいですよ！巧さん」

二人とも怒っているが巧には関係ない

「国法！俺は今から人探しをスツからじゃあな！」

そのまま謝らず出て行った

「な・・・なんですの！あの方は殺す！」

黒子は鞆から釘みたいなものを出そうとするが国法に邪魔されてしまう

「・・・・・・・・ごめんなさい、白井さん、初春さん」

先輩が謝るなんて予想外だったので二人は戸惑う

「せ、先輩なんですか？」

その言葉に戸惑うが、悲しい顔をした先輩にこれ以上の質問はやめたほうが言いと二人は思った

「・・・・・・・・でも、彼、誰を探しているんでしょうね」

暗い話題を変えようと国法はドアのほうを見る

「あら？なにかしら？」

ドアの近くにいた黒子が落ちていたものをとる

「・・・・・・・・これは」

ここで、なんで彼が風紀委員にいるか説明をしなければならぬ、今回の任務はターゲット（ここでは御坂 美琴のこと）との接触しないといけないので、ターゲットと相部屋の白井 黒子と同じ支部の風紀委員をし、接触をはかれという感じだ

『え〜〜！じゃあ、白井 黒子と一試合やりそうになったのぉ〜！』

心配してかけてきた小桜は案の定のセリフをはく

「うるせえ〜し、てか一試合はいきすぎだ！」

めんどくさそうに頭をぼりぼり掻きながら答える

「は〜、後で国法先輩には私から謝つとくわ」

「ん、じゃあな」

「あ、ちよつとたく

」

巧はいきなり通話を切る、そして不恰好な携帯もポケッ
トにしまう

「なんだ、白井 黒子」

「あら？あれじゃあ私達の名前も聞いてないと思いまし
たわ」

「これはなんですか？」

そこには、御坂 美琴が写った写真があった

「あ、・・・」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4989z/>

仮面ライダー555×とある科学

2011年12月17日20時47分発行